

SDGs – Sustainable Development Goals – 持続可能な開発目標

MICEにおけるサステナビリティ 取り組みへの入門書



YOKOHAMA
JAPAN'S FIRST
PORT OF CALL

はじめに

地球環境問題に対し、経済・社会・環境の発展・成長のあり方を問い直す「SDGs = 持続可能な発展 = サステナビリティ」の概念が提唱されていることを受け、横浜でのサステナブル MICE の実施を推進していきたいと考え、「MICE におけるサステナビリティ 取り組みへの入門書」を作成いたしました。SDGs の取り組みを通し、横浜 MICE が更に豊かになることを願います。

公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー

CONTENTS

はじめに	2
SDGs とは？	3
地球上の誰一人として取り残さない考え方	4
MICE で取り組む SDGs	5
「ISO20121」規格とは？	6
SDGs 事例 YOKOHAMA	7
その他の地域での SDGs 事例	10
グローバルな評価制度	11
サステナブル MICE に向けたチェックリスト（概略版）	12
SDGs 参考サイト	12

エス ディー ジー ズ

SDGs (Sustainable Development Goals) とは？

持続可能な開発目標

「SDGs」とは「Sustainable Development Goals（持続可能な開発目標）」の略称であり、2015年9月に国連で開かれたサミットの中で世界のリーダーによって決められた、国際社会共通の目標です。

SDGsは、2000年に国連のサミットで採択された「MDGs（ミレニアム開発目標）」が2015年に達成期限を迎えたことを受けて、MDGsに代わる新たな世界の目標として定められたものです。

MDGsは先進国による途上国の支援を中心とする内容です。しかしながら、途上国からはこんな声があがりました…“先進国側から、乳幼児死亡率の削減など、発展途上国が抱える問題を挙げられ、解決策を探った。だが、その内容は先進国が決めており、進展するためには地域の偏りなどの「見落とし」がある…”

これを受け、2015年に新たに策定されたSDGsは、先進国と途上国が一丸となって2030年までの達成を目指す、持続可能な開発のための17のグローバルな目標と169のターゲット（達成基準）から構成されています。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS
世界を変えるための17の目標



地球上の誰一人として 取り残さない考え方

leave no one behind

5つのP (People、Planet、Prosperity、Peace、Partnership) 人間、地球、豊かさ、平和、国際社会のパートナーシップにより、「地球上の誰一人取り残さない (leave no one behind)」社会の実現を目指します。

人間 People

あらゆる形態と次元の貧困と飢餓に終止符を打つとともに、すべての人間が尊厳を持ち、平等に、かつ健全な環境の下でその潜在能力を発揮できるようにする (目標1、2、3、4、5および6)。



豊かさ Prosperity

すべての人間が豊かで充実した生活を送れるようにするとともに、自然と調和した経済、社会および技術の進展を確保する (目標7、8、9、10および11)。



地球 Planet

持続可能な消費と生産、天然資源の持続可能な管理、気候変動への緊急な対応などを通じ、地球を劣化から守ることにより、現在と将来の世代のニーズを充足できるようにする (目標12、13、14および15)。



平和 Peace

恐怖と暴力のない平和で公正かつ包摂的な社会を育てる。平和なくして持続可能な開発は達成できず、持続可能な開発なくして平和は実現しないため (目標16)。



パートナーシップ Partnership

グローバルな連帯の精神に基づき、最貧層と最弱者層のニーズを特に重視しながら、すべての国、すべてのステークホルダー、すべての人々の参加により、持続可能な開発に向けたグローバル・パートナーシップをさらに活性化し、このアジェンダの実施に必要な手段を動員する (目標17)。



MICE で取り組む SDGs

どうビジネスに紐づけるか

SDGs を知り、SDGs の達成に効果的に貢献できることは何かを考えることが大切です。

[MICE 施設及び主催者が取り組むべき SDGs 一例]

7 エネルギーをみんなに
そしてクリーンに



会議、催事での省エネルギーの推進

イベント開催前・開催中・開催後の消費電力を減らし、エネルギー効率を高める

9 産業と技術革新の
基盤をつくろう



情報通信技術への貢献を通じたイノベーションの拡大

会場のインフラと技術革新への投資を行い、WEB サイトや SNS、看板など情報発信の仕組み構築する

12 つくる責任
つかう責任



天然資源の持続可能な利用と管理

飲食では、フェアトレード商品の積極的な利用・提供、フードロスの削減、プラスチック製品の削減、リサイクルによる廃棄物の削減に努める

13 気候変動に
具体的な対策を



温室効果ガスの削減

二酸化炭素 (CO₂) 排出量の削減
気候変動に関する教育や啓発を行う

17 パートナーシップで
目標を達成しよう



多様なステークホルダーとの連携

目標を達成するため、産学官民の活発な連携と協働を行う

「ISO20121」規格 とは？

イベントサステナビリティ認証



2012年に開催されたロンドンオリンピック・パラリンピックは、「持続可能性（サステナビリティ）」を目指す大会として運営され、史上最も環境に優しい大会として高い評価を得ました。その大会を支えたのが、持続可能なイベント運営のためのマネジメントシステム規格であるISO 20121です。

ISO 20121は、イベント運営における環境影響の管理に加えて、その経済的、社会的影響についても管理することで、イベント産業の持続可能性（サステナビリティ）をサポートするためのマネジメントシステムです。

ISO 20121は、オリンピックのような国際イベントから地方のお祭りまで、イベントの大小にかかわらずイベント運営に関わるあらゆる組織が対象となり、適用が可能です。また、イベントに関わるすべてのステークホルダー（利害関係者）によって活用されるマネジメントシステムです。

「ISO20121」のメリット

- ・ イベントのブランド価値が向上します。
- ・ 関連機関との関係がスムーズになり、持続可能なマネジメントの促進、人材育成に役立ちます。
- ・ 経営ツールとして活用が可能です。

SDGs 事例 YOKOHAMA

パシフィコ横浜



屋根に集まる雨水を利用した節水



イラスト付きの分別用ゴミ箱

展示ホールの屋根に集まる雨水を利用して、節水を実施しています。たまった雨水は、自家発電機用冷却水や、会議センターの中水としてトイレ用の水に使用し、節水型トイレとの組み合わせにより水道使用量は65%減の35%となり大きな削減効果を生んでいます。

また、施設内で排出される産業廃棄物の焼却により発電した電力（年間約30万kwh）を、臨港パークの電力に再利用（地産地消）しています。アーバンエナジーのサービス「創電割」を活用しています。

廃棄物リサイクル100%を目指し、分別用ゴミ箱をイラスト付きにし、廃棄物処理の流れの説明パネルを掲示しています。希望する主催者にはリサイクル率や増減用等把握できる廃棄レポートを提出しMICE施設ではトップレベルの93%のリサイクル率とごみの削減を実現しています。

<http://www.pacifico.co.jp/pacifico/approach/sustainability/tabid/610/default.aspx>



横浜ロイヤルパークホテル



レストラン＆バンケット「フローラ」



ハラール対応メニュー

横浜ロイヤルパークホテル、地下1階レストラン＆バンケット「フローラ」は、2018年10月2日(火)より、ユニバーサル・フード&ホスピタリティをテーマに、ハラール、ベジタリアン、ヴィーガン、グルテンフリーをはじめ、様々な国、様々な宗教や食の禁忌にも対応し、日本人の方にも「安心安全」「健康志向」なメニューを提供するユニバーサル・レストランに生まれ変わりました。

「フローラ」の厨房を専用キッチンとし、一般社団法人ジャパン・ハラール・ファンデーションより、レストランとしてのハラール認証（オールフード・ハラール）を取得。これにより、全メニューがハラール対応となり、さらにベジタリアン、ヴィーガン、グルテンフリーにも対応したメニューの用意が可能になりました。

<https://www.yrph.com/restaurants/flora/index.html>



SDGs 事例 YOKOHAMA

ヨコハマ グランド インターコンチネンタル ホテル



画像はイメージです

2018年9月から生分解性ストローをラウンジ&バー「マリンプルー」で導入。これを皮切りに、各レストラン、宴会場などで段階的に導入し、2018年末には全レストラン、ラウンジ、バー、宴会場でのプラスチック製ストローの使用が廃止されました。これにより、同ホテルが年間で使用する約15万本のプラスチック製ストローは、とうもろこしなどのでんぷんから得られる植物由来の新しい樹脂を原料とした、地球にやさしく環境に負荷をかけない生分解性ストローに変更されました。

生分解性ストローは使用後、微生物の働きによりコンポスト化が可能です。また、焼却された場合でも有害物質を発生しないので安全です。なお、厳しい環境適合基準を満たしたものに使用できるマーク「グリーンプラマーク」、および焼却時の炭酸ガス排出量の低減に効果があるといわれる「バイオマスプラマーク」の認証を受けています。

<https://www.interconti.co.jp/yokohama/>



株式会社横浜ビール



道志村へ堆肥の納品

食品廃棄物を資源として循環させる食品リサイクルループ「フードループ」を確立し、取り組んでいます。クラフトビール醸造工程や直営レストランで排出される食品廃棄物を、横浜環境保全㈱の協力を得て堆肥に再生、横浜の水源地「道志村」にその堆肥を運び、道志村の生産者と連携して野菜栽培を行い、収穫された野菜は横浜ビール直営店や横浜の飲食店で使用されています。道志村の活性化につながり、過疎化の進む村での雇用促進を担う活動となっています。

また、水源地道志村の湧水を使用しビールを醸造、その売り上げの一部を道志村の子供たちに役立つ寄付活動も同時に行っています。

<http://www.yokohamabeer.com>



SDGs 事例 YOKOHAMA

公益財団法人横浜市資源循環公社



繰り返し使用可能なリユース食器

「使い捨て」から「リユース」へ!! イベントでのごみ& CO₂削減!!

飲食を伴うイベントで使い捨て容器の代わりに使用されるもので、使い捨てではなく洗浄し何度も繰り返し使用可能な食器、リユース食器の普及啓発活動を行っています。

イベントで発生するごみのうち大部分を占めるのが、飲食提供に使用された使い捨て容器です。リユース食器を使用することにより大幅なごみの削減が実現でき、環境に配慮した姿勢をイベント主催者や来場者へアピールしてまいります。

<http://www.shigenkousha.or.jp/>



株式会社大川印刷



SDGs 経営計画策定ワークショップ



本社屋上に太陽光パネルを設置

SDGs を経営の中に実装し活動しています。自社の印刷事業で使用される電気・水道・ガス・車両燃料から排出される年間のCO₂を算出、年間およそ170トンのCO₂を政府のJ-クレジットの仕組みを活用し、それら全量を予めカーボン・オフセットした上で事業活動を行う「ゼロカーボンプリント」を中心とした環境印刷を推進しています。これにより印刷物を発注するお客様は、「スコープ3」と言われるCO₂の間接排出量の削減ができ、気候変動に対する具体的な活動につなげることができます。

2018年度は本社・工場においてRE100(再生可能エネルギー100%)を達成いたしました。

さらに進んだ循環経済の実現を目指し、本社屋上に太陽光パネルを設置、自社で発電できる体制を整える他、ゼロエミッション、脱石油の推進をすると共に、自社のスコープ3の削減も含め、活動しています。

<https://www.ohkawa-inc.co.jp/>



その他の地域での SDGs 事例

国内

サステナブル
イベント支援

札幌



グリーンコンベンションは、グリーン電力証書の交付を受けるなど、自然エネルギーを電力として利用、コンベンションで利用する資源のリユース、リデュース、リサイクルを進め、ゼロエミッション（廃棄物ゼロ）を目指す取り組みです。さらに北海道の地場の資源を活用し、地産地消によるコンベンション運営も目指しています。

北海道の緑の大地に根ざした、新しいコンベンションのあり方として、例えば、「イベント時に13種類にゴミを分別」の実施や札幌市内のホテルでは「生ゴミリサイクルシステムと独自の廃食用油の回収システム」を構築するなど廃棄物抑制が取組まれています。その他、北海道の豊かな森林資源を維持するため植樹によるカーボンオフセット「レガシーの森プロジェクト」を実施しています。

参考： <http://www.sapporo-convention.net/green/index.html>



コンパクトシティ

下川町

～「誰一人取り残されず、しなやかに強く、幸せに暮らせる持続可能なまち」の実現を目指して～

北海道下川町では、SDGs 達成のため具体的な事業例として、域内外のステークホルダーが集う「都市と地域のためのSDGs パートナーシップセンター（仮称、SDGs Partnership Center：SDGs-PC）」の構築、SDGs の進捗を測るための町独自の「しもかわSDGs インディケーター」及びそれを支える「しもかわデータベース」の整備、森林バイオマスエネルギーの利用と組み合わせた「域外の企業とのパートナーシップに基づく地域の多様な人材登用による集落価値向上事業」などが進められています。

参考： https://pub.iges.or.jp/system/files/publication_documents/pub/policyreport/6568/Shimokawa_SDGsReport_JP_0713_web.pdf



サステナブル
イベント支援

京都

京都らしい文化を取り入れたコンベンションを地元コミュニティを支え、文化的遺産を守ることにつなげる取組みを進めています。また、ホームページ上で「サステナブルな事業者一覧」を掲載。誘致活動から企画・実施に至るトータルでサステナブルコンベンションを支援する仕組みが整え、サステナビリティに向けた取組みを支援しています。

参考： <https://meetkyoto.jp/ja/kyoto/sustainability/>



海外

カーボンマネジメント

2012年 オリンピック・ パラリンピック ロンドン大会

低炭素な大会の実現に向け、大会のライフサイクル（準備から開催後）までのカーボンフットプリント（CFP）を算出。実排出量との比較によりCO₂排出量の削減を評価した。CO₂排出量は、開催前の推計値で3,448千tCO₂eでしたが、大会後の実測値では3,329千tCO₂eであると報告されています。これらは、GHGプロトコルの国際規格（ISO14064）に沿って算出されました。

参考：London 2012 Post-Games Sustainability Report A legacy of change (London Organizing Committee of the Olympic Games and Paralympic Games Ltd, December 2012)

コンベンション施設

シンガポール マリナーベイ・ サンズ

東南アジアで初めてISO 20121の持続可能なイベント運営のためのマネジメントシステム認証を取得したMICE施設として、またシンガポール建設局からグリーンマークプラチナの認定を受けたシンガポールで唯一最大の建築物として環境保全に取り組んでいます。独自のSands ECO360°プログラムを用いたサステナブルなMICE運営、開催が可能な施設です。Sands ECO360°は、二酸化炭素の排出や環境への影響を削減、責任ある運営を行うための持続可能なプログラムとして「グリーンビルディング」、「環境に配慮した運営」、「グリーンミーティング」、「サステナビリティ教育と社会貢献」で構成され、MICE開催施設として注目されています。

参考：<https://jp.marinabaysands.com/environmental-sustainability.html> (日本語)



コンベンション施設

カナダ バンクーバー・ コンベンション センター

建物と敷地利用についての環境性能評価システム、LEED® プラチナ認定取得のコンベンションセンターです。屋上の緑化屋根をはじめ、海水を利用した冷暖房装置やリサイクル材の利用など、建物全体が「グリーン」をコンセプトにしています。

地域と連携をはかり、公認の食品飲料サプライヤーを通じて、使用済み飲料用の缶、ペットボトル100%をUnited We Canに寄付し、障がいを持つ人々の経済的機会を創出しています。

参考：<https://www.vancouverconventioncentre.com/> (英語)



グローバルな評価制度

サステナブル
都市評価

GDS-Index (Global Destination Sustainability Index)

サステナブルな世界都市評価として、自己宣言に基づいたランキングを実施。国際会議協会（ICCA）スカンジナビア支部が開始した取組みで、ICCA本部やMICE運営会社大手MCIグループ、世界最大の見本市運営会社IMEXなどが専門組織「GDS-Index」を構成し、世界規模で展開しています。

日本から札幌と京都が参画しています（2019年2月現在）。

参考：<https://www.gds-index.com/> (英語)



サステナブル MICE に向けたチェックリスト（概略版）

イベント前の計画

- 印刷物は最小限にする。印刷する場合は環境に配慮された材料や製造方法で印刷を行う。

廃棄物防止

- 使い捨てプラスチックを減らすため、使用するカップ、プレート、ナプキン、カトラリー（ナイフ、フォーク、スプーン）は再利用できるものを選ぶ。または再利用が可能な材料でつくられているものを選択する。
- プラスチック容器の利用を減らすため、ウォーターサーバーで水を提供する。
- 会期中はビニール袋を使わないよう、再利用できるエコバックなどを用意する。
- イベントブースなどでは、リサイクルされた材料や再利用可能な素材からつくられている材料を利用する。

廃棄物管理と処理

- リサイクルのためのゴミ箱を設置する。

調達

- フェアトレード商品（例：コーヒー、紅茶、砂糖、チョコレートなど）を積極的に利用・提供する。

エネルギーと排出量

- イベント開催前・開催中・開催後の消費電力を減らし、エネルギー効率を高める。
- イベント開催における二酸化炭素(CO₂)排出量を算出し、オフセットプロバイダーを通じてカーボンオフセット(相殺)を実施する。

水

- イベント開催時の水の使用量を減らす。

輸送

- 公共交通機関の利用を推奨する。

意識を高める

- 利用者の意識を高めるため、WEB サイトや SNS、看板などを利用して情報発信を行う。

イベント後

- イベント後に開催結果を確認し、次回開催の改善事項を検討する。

SDGs 参考サイト

国際連合広報センター（2030 アジェンダ）

https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/



外務省（SDGs プラットホーム）

<https://www.mofa.go.jp/mofaj/gaiko/oda/sdgs/index.html>



環境省（SDGs 活用ガイド）

<https://www.env.go.jp/policy/SDGsguide-honpen.rev.pdf>



横浜 SDGs デザインセンター（横浜市）

<https://yokohama-sdgs.jp/>



発行：公益財団法人横浜観光コンベンション・ビューロー

編集協力：株式会社プリプレス・センター

編集・印刷：株式会社大川印刷



この冊子の PDF ダウンロード
はこちらから。